



私のひとりごと

「まさか自分が」

高速道路のETCゲート前で、立ち往生している車をたまに見かける。おそらくカードの期限切れと思われるが、後続の車までえらい迷惑を被っている。「バカだな～！期限くらい確認しておけよ～」と内心バカにしていた。ところが自分も同じ様な目に遭おうとは・・・。

先日、知人宅に荷物を運ぶのにトラックで高速を走った。トラックにはETCの車載機は付いていないが、支払いはETCカードで済ませる事を常としていた。2時間程のドライブの末、料金所で支払いの為カードを差し出すと、「お客さん、カードの期限が切れていますが！」



と、思いもしない出来事に頭が真っ白になった。確かに半月程前に切れている。「では現金で支払います。」と、なんとか切り抜けると、「宜しいですか・・・」と、申し訳なさそうに対応してくれたのがせめてもの救いであった。

徐々に冷静さを取り戻した頃、今度は重大な事に気がついた。財布の中身である。私は常日頃からほとんど現金を持ち合わせていない。若い頃の話になるが、クレジットカードを使い込んで返済不能になり、家内が肩代わりして返済し、多大なご迷惑をおかけしたことがあった。それ以来、家内にはすっかり信頼を失い、金額上限付きのクレジットカードとETCが一つになったカード1枚を渡されているが、それも家内の防衛策と思われる。そんな家内の地道な努力のお陰により、今では、私の浪費癖はすっかり影を潜め、現金を持ち歩かない事に何の抵抗も不安もない。時折、九州や四国、東北に出向く時でさえカード1枚と少々の現金。現金といっても、私の財布には福沢諭吉さんなど滅多にお越しになった事は無く、野口英世さんが、2、3人程お住みになっている程度である。

そんな訳で、料金ゲートで財布の中身を確認する時、時間がやけにゆっくり流れている様に思われた。恐る恐る開けると、「いた、いた！」野口英世さんが、いやいや、野口博士が3人お住いになっていた。野口博士のお陰でゲートを通り、ホッとすると今度は段々腹が立ってきた。「こんな期限の切れたカードを持たせやがって～・・・」と、もはや悪者は家内となっていた。すぐさま電話すると、「バカやな～！期限の切れたカード持ち歩いて、新しいカードは前からあるで～」と、電話の向こうで笑っている。人様に対し日頃使っていた私の心が、同じように私に帰ってきた瞬間であった。まさに天に向かってツバをはいていたのである。

どうやら私の人生には、反省を促される場面がいたるところに転がっているように思えてならない・・・。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき・・・

あーがしう
ございました!!

